



小鮎川沿いの春めき桜

(撮影：小林会員)

令和6年4月号 Vol. 240

(2024年)

発行：令和6年4月9日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

＜奥七沢パワースポットと神秘の里＞

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日時：3月1日（金） 9：00～14：45

場所：東丹沢七沢観光案内所～県立自然環境保全センター～伊勢原浄水場～日向神社（白髯神社）～日向薬師～亀石～東丹沢七沢観光案内所

参加者：一般14名、会員8名

開催日が迫っても天気予報の降雨確率は高く、開催が危ぶまれていましたが、前日になって時間ごとの詳細予報を見ると、降雨確率は相変わらず高いものの、集合時間前には雨もやみ、その後は回復に向かうとの事でしたので、難しい判断でしたが、開催が決定されました。（おそらく、リーダーは開催の判断やお客様の対応、会員への連絡等で大変苦労されたことだと思います。）こうした天気状況のせいも、久しぶりに定員を超える応募があったにもかかわらずキャンセルが続出、残念ながら最終的な参加者は、当初の半分程度、14名となってしまいました。



朝礼では、リーダーから悪路が予想される山道は通らず舗装された林道を下り亀石へ出る旨の説明がありましたが、お客様も止むを得ないとの表情で、受け入れて下さいました。朝礼後、全員で体操を行い、人数は減りましたが2班に分かれ出発しました。

天気は予報通りで、バスを降りた頃は山々は雲がかかり、まるで水墨画の世界のようでしたが、自然環境保全センターに着く頃には、青空も見えるようになりました。順路は昨年と同じで、保全センター、伊勢原浄水場、日向神社、日向薬師、そして昼食をはさんで亀石を案内しました。各ポイントでの解説者が、ほぼ昨年と同じであったこともあり、社寺等では単にその場の説明だけでなく、設立等の背景も含め、詳細かつ慣れた説明がなされていました。

また、2班の伊勢原浄水場での説明は、浄水場の説明だけでなく、地震発生時には、水道設備が壊れなくても電気が来なければ水道が使えない場所もあるなど、具体的な場所を基に分かりやすい説明があり、参加者の関心を集めておりました。ほぼ定刻に、日向薬師の上にある梅園で昼食を済ませ、昨年に続き当初予定の日向山へは行かずに舗装された林道を通して亀石へ、その後七沢の温泉街を通して観光案内所へと帰路につきました。林道においては、説明や雑談が交じり合い和気あいあいとお客様との親睦がはかれました。

お客様の中には、不動産のミツマタに興味がある方が多いようで、不動産の方向や行き方に関する質問が多くあり、ミツマタに関する関心の高さが覗えました。今年は無理でも、来年以降に観ボラとして企画したらどうかと思います。心配の中での開催でしたが、終わってみれば雨にも降られず、参加者全員怪我も無く無事終了出来たことが何より良かったと思います。



追記： 薬師林道で車とすれ違った時に一人の会員から「本当はこの道、車両通行禁止なのですよ。」と教えられました。私は全く知りませんでしたので半信半疑、家に帰ってネットで調べてみたら、確かに車両どころか自転車も通行には事前の許可が必要との事が分かりました。実は、厚木市もこの道を昨年「サイクリングロード」に指定したところ、自転車の通行も原則禁止されていることが判明し、謝罪の上指定を取り消したとの記事が載っていました。
(根岸 記)

<令和5年度かながわガイド協議会スキルアップ研修会>

行事区分：外部研修

日 時：2月28日（水） 10：00～12：00

場 所：東藤沢市民会館小ホール

参加者：会員1名（参加団体：12団体 計160名）

今回は主催者の県国際文化観光局観光課担当課長、協議会会長の挨拶の後、県立博物館館長望月一樹氏による「近世、旅日記に見るかながわの名所」と題する講演がありました。

かながわの名所が記された文献はどの様なものがあつたか紹介されました。かながわの様子を記した最古の旅日記は『更級日記』藤原孝標女です。寛仁4年（1020）上総国府から、下総、武蔵、相模を通り京都に帰京する様子を「にしとみ、屏風のような山並みと海岸にいみじうおもしろい、もろこしが原、足柄山うんぬん」と記されています。どうやら、にしとみは藤沢、山並みは丹沢、もろこしが原は大磯入口の海岸のようです。

中世の三大紀行文の『海道記』には「駿河、足柄峠、関下、逆川、大磯、砥上が原、江ノ嶋、鎌倉、勝長寿院、永福寺、鶴岡八幡、由比ガ浜」、『東関紀行』には「芦ノ湖、湯本、大磯、江の島、鎌倉、三浦半島」注目は大仏建造中の記述があることです。『十六夜日記』には「三島、元箱根、芦ノ湖、湯坂山、湯本」などが記録されています。富士山の噴火により、一時期足柄峠経由が使えなくなりましたが、その後はふたつの箱根経由と併存するようになりました。

江戸時代後期、文化、文政頃になると、庶民の旅が活発となります。街道、宿場の施設の整備がすすんだことが大きな要因です。信仰（伊勢、富士山、大山、江ノ島、金沢八景等）、物見遊山、講の発達でますますブームとなりました。『道中記』は江戸時代に出版された旅の案内書すなわちガイドブックです。宿場毎の里程、旅籠屋、名所、名物が記され、図入りもあります。『五街道中細見記』、『道中双六』は東海道、中山道、木曾道などを題材としています。

『旅日記(道中日記)』は旅人達個人の宿泊場所、昼食代、宿賃、名所旧跡の感想等当の旅の実態がわかる貴重な記録です。これらの記録に出てくる神奈川の名所はやはり、鎌

倉、江ノ島、川崎大師、大山、最乗寺、横浜（開港地）金沢八景、杉田、遊行寺、箱根と現代とあまり変わりありません。

大山はよく登場しますが、肝心の「厚木」は？実は「鎌倉江ノ島大山 新板往来雙六」葛飾北斎画にやっと登場です。日本橋を出発、渋谷に戻って来る雙六です。「日本橋～（途中省略）～大山～粕谷～愛甲～厚木～川原口～（途中省略）～渋谷」矢倉沢往還が登場するからです。

最後に、協議会から「各地域のお勧めの名所を見つけ訪れた方をご案内下さい。江戸時代の旅人は何を楽しみにしていたか参考にし、名所以外も発掘、発信、食文化についても一層利用して新しい楽しみを発見してください」と締められました。（石川 記）

《2023 年度入会の会員紹介》

1 月と 3 月に新会員が入会されました。協会ニュース用に自己紹介をして頂きましたので掲載します。一緒に楽しく活動していきましょう。（編集担当）

西川 将（1 月入会）

私は去年 8 月に厚木に来たばかりで、正直、厚木のことは全然詳しくないです。本協会に入会したのも、散歩や自然が好きで、厚木のことをもっとよく知りたいという理由で、先輩方のように素敵な想いがあるわけではないかもしれませんが。それでも快く受け入れてくださっている皆さんに感謝しつつ、少しでも役立てるように勉強します。

皆さんに追い付き追い越すまでは、体や健康のことなら何でも聞いてください！あと、お酒が好きなので協会のイベント以外でも皆さんと飲んだり楽しみたいです！よろしくお願いします。

トロンナムチャイ 千鶴（3 月入会）

主人は在日約 40 年のタイ人で、私自身も学生時代タイ語を専攻し、5 年ほど前に主人の仕事の関係で横浜から厚木に引っ越して参りました。以前から観光ガイドには興味がありましたが、昨年末の宮ヶ瀬、湘南平、愛甲宿と当会のハイキングに参加、皆様の温かく心のこもったガイドぶりに感激し、私も是非一緒に活動させて頂ければ！と気が付いたら先日の奥七沢ハイキングには青い帽子と上着を着て参加しておりました。

まずは厚木の事をたくさん学び、豊かな自然等を多くの皆様に紹介出来ればと思っております。尚、趣味は季節の和菓子作りで、ご本尊様のあんこは絶対自分で炊きます！タイ料理も作ります。宜しくお願い申し上げます。

《飯山観音定点ガイド「事前勉強会」》

行事区分：勉強会

日 時：3 月 9 日（土）11：00～12：30

場 所：アミューあつぎ ルーム 610

参加者：会員 23 名

4 月から開始される定点ガイドの実施に先だって、あつぎ郷土博物館学芸員の大野一郎様か



ら講義をしていただきました。私達は不特定のお客様を対象にするガイドはやった事がありません。どの様にガイドしたらよいか、また坂東 33 観音巡礼の成り立ちなどについて、お話しをして頂きました。

まず定点ガイドにあたってという点では、お客様との距離をどのように縮めていくか、どれ位の事を要求されているのかについて、手探りでやる事になるとの事でした。「相手の方から“もう結構です”と言われる事もあります。観ボラさんもこれから御苦労されるのではないか」との事でした。

飯山については飯山観音だけではなく、山全体でとらえる事。大山、日向、八菅山、鐘ヶ嶽、飯山、白山などは、昔は聖地であって修験僧が修行に励んでいたエリアであるとのこと。源頼朝が熱心な観音信仰であった事や、1 番札所が鎌倉の「杉本寺」であることから、坂東 33 観音巡礼の成立は鎌倉時代であったらうとの事でした。観音菩薩は一般の人との間に立って衆生をお救い下さるということで、さまざまなハイブリットな願いに対して直接聞いて下さるのが観音様の非常に優れたところだそうです。

その後、会員 5 名から質問があり、それぞれ大野様から回答を頂きました。（澤田 記）

《不動尻ミツマタ鑑賞客 七沢観光協会駐車場での案内》

行事区分：行事支援

日 時：3月16日（土）、3月17日（日）、3月20日（水・春分の日）

いずれも8:00～13:00（参加者：6名×3日）

3月23日（土）雨天中止

3月24日（日）8:00～13:00（参加者：7名）

場 所：七沢観光協会駐車場、臨時駐車場

参 加 者：延べ 25 名

平成 31 年 3 月に 46 名のお客様をお連れして「谷太郎溪谷のミツマタ鑑賞ハイキング」を実施しましたが、当時はミツマタを見に来る一般のハイカーは非常に少なく、お陰で 46 名のお客様と不動尻で合唱が出来たほどでした。従来は清川村から谷太郎溪谷沿いに歩き、ミツマタの咲く不動尻に来ていましたが、溪谷沿いの道が荒れて、この年から広沢寺温泉から二の足林道を歩き不動尻に向かう事にしました。下見の時に、会員から不動尻の坂道を登った所にあるミツマタ群生地を教えて頂き、群生したミツマタの美しさに会員一同が感動しました。その後、観光協会ではこの群生地を背景に素晴らしいチラシを作成し、不動尻のミツマタの知名度は一気に上がりました。今年も多くの方がミツマタ観賞に来られ、地元の方々の協力で臨時駐車場が準備されました。また、登山道の整備、年間



を通じての綺麗なトイレの維持、飲食店や温泉の提供など地元の方々の活動の上に成り立っている事を再認識しました。来年はバスの臨時便、シャトルバスの活用等を検討していただき、駐車場案内ではなく観ボラ本来のミツマタ観賞ハイキングを再開したいものです。今回は短期の準備期間でしたが、観光協会の頑張りのお陰で、無事初日からお客様への支援活動を行うことが出来ました。（山下潔 記）

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
3月 9日	アミューあつぎ	定例会	会員 22名
3月 9日	アミューあつぎ	事前勉強会（定点ガイドについて）	会員 23名
3月 16、17、 20、24日	七沢観光協会 駐車場	不動産ミツマタ鑑賞客 七沢観光協会駐車場での案内（4回）	会員 25名
3月 20日	荻野公民館	創立20周年記念誌編集委員会#19	会員 4名
3月 22日	八菅山・鳶尾山	企画ガイド 下見 「八菅山・鳶尾山ハイキング」	会員 4名
3月 30、31日	飯山地区	飯山桜まつり支援	会員 8名
3月 31日	飯山地区	金剛寺・文化財一般公開支援	会員 4名
4月 4日	相川公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

2023年度の活動も3月末で無事終了しました。2020年2月頃から始まった新型コロナウイルスの感染拡大から4年が経ちました。その間、新型コロナウイルスのワクチン接種も7回受けました。未だ感染者が散見されていますが、ほぼ以前の様な活動が出来るようになってきました。2024年度も企画ガイド（ハイキング、歴史探訪）として、多くの行事が計画されています。参加されるお客様に楽しんでいただけるよう、皆様の積極的な参加をお願い致します。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘